

テクノロジーを活用した新しいネットメディアへの取り組み

一般社団法人まちテレ 専務理事 中野裕介

[HP] <http://mothertown.tv> [mail] y.nakano@denmark.ne.jp

①メディアアートを香川で

2014年夏に行われた「チームラボと香川 夏のデジタルアート祭」では、テクノロジーとアートが融合した新しいメディアアートにより多くの観光客や市民で賑わいました。

メディアアートは、デジタルアート、映像、アニメ、デジタルフォトなど複製可能なデジタルコンテンツであり、SNSなどによる拡散性から先進的なシティプロモーションの手法のひとつとして注目を集めています。

しかしながら、こうした最新のテクノロジーを活用できる人材は地方ではあまり多くありません。今、私たちは、インターネット放送のスタートから、テクノロジーとメディア、テクノロジーとアートによる創造的人材の育成に取り組んでいます。

②まちテレの取組み

2012年に(公財)高松観光コンベンション・ビューローの観光プロモーション事業の認定を受け、一般社団法人化、現在では高松市のイベントなどを配信する他、中四国では唯一のUstreamの公認スタジオを運営し、地元スポーツなどを紹介するスタジオ番組も配信しています。

また、12月9日からはフランスのケーブル放送にて高松を紹介する番組がより放映されるなどインターネット放送以外でのコンテンツ発信にも力を入れています。



チームラボと香川 夏のデジタルアート祭ポスター



まちテレにて配信してきたインターネット番組例 ※一部抜粋

【主な番組の再生回数 2012年8月-2014年11月】

23,899回	さぬき高松まつり
20,307回	香川の4球団の情報をお届け！4SPO
15,760回	Bonsai 盆栽の里 高松
12,286回	高松市
10,713回	サンポート高松トライアスロン大会
10,045回	高松つながっていい友

まちテレの累計再生回数は17万5千回と決して多いわけではありませんが(比較:香川県Youtube「香川県インターネット放送局」は4年半で79万回再生)、番組のひとつ「Bonsai 盆栽の里 高松」は10%が海外から視聴されており海外発信の有効な手段となっております。

③まちテレの出発点と苦勞

2010年に香川大学の学生たちによる地域活動と情報工学の実地活用を目的に「e-とぴあ・かがわ」の協力によりトライアスロン大会のネット中継を行いました。学生たちが大規模な中継を行ったということで注目を集め、以降多くのイベント中継の相談を受けるようになりましたが、学生たちだけで対応できずお断りするようになりました。

2012年には「e-とぴあ・かがわ」にネット中継システムが導入され「ライブメディアコーディネータ養成ワークショップ」の講座がスタートしました。受講生を中心とする一般社会人が参加する仕組みが出来上がりました。まちテレが一般社団法人化したのもこの頃です。

しかし動画配信で収益をあげることは難しく、維持運営は大変でした。そこで、自治体から配信の業務委託を受けるようになったのですが、今度はボランティアでは責任を持たせることができず、専門職員による運営が必要となりました。一番の問題は、ネット中継の業務が土日が多く、平日は仕事がないことでした。

そこでより高度な中継技術や映像制作に取り組ましました。例えば、トライアスロン大会で選手に取付けたバイクカメラや、通信状態の悪い山間部、マルチコプターを使った空撮や、専門性が必要とされる野球中継などです。

高度なネット中継に挑戦することで職員の技術スキルが高まり新しい仕事が増えてきました。医学用のCG映像、美術館や博物館、ホール展示用の映像制作などです。映像コンテンツの制作業務が増え、平日は撮影や編集などの業務を行い、土日は中継を行うといった体制を組むことができるようになりました。

④地方におけるコンテンツについて

インターネット動画の普及は、テレビ局が集中する東京を中心としたモデルから、地方発信へと変化しつつあるようです。しかしその制作力の差は依然として大きく、優秀なクリエイターの確保や育成が重要な課題となっています。これからは単に動画を制作し発信するだけでなく、テクノロジーとメディア、テクノロジーとアートとの融合したコンテンツが重要になっていると感じます。



バイクカメラからの映像 サンポート高松トライアスロン大会 2012



通信状態の悪い山間部から映像送出 古代山城サミット高松大会 2013



マルチコプターによる空撮映像を中継 現代屋島合戦絵巻 2013



独自開発のスコアボードや4Kカメラを使った野球中継



クロマキー合成を使った番組制作

